

# 本校の学校行事について

## —その実際と問題点—

提案者 本校教官 天野 菊三郎

### 概 要

学校行事の実施の場合、学校の規模・設備等の状況により諸種の問題点があるが、一般的問題としては下の3項に要約することができるであろう。

1. 物的条件
  - イ. 学校施設・設備関係
  - ロ. 予算・経費関係
2. 人的条件
  - イ. 学校の適正規模（生徒数・教官定員）
  - ロ. 組織・運営の適正
3. 心的条件
  - 教官・生徒の学校行事に対する心構え（消極的参加、行事のマンネリ化・入試対策の重点化）

以上の3項の中には学校独自の努力では解決できないものも含まれているが、現状を足場に発展させる努力は必要である。一般の学校がマンモス化し各種の問題点を数多くもっている現状からみれば、小編成で而も中・高一本の運営をしている本校の条件は良い筈であるが、適正規模を欠くため各種の問題点をもっている。以下各種の行事についてその実態を述べ、その問題点を提案する。

### 臨海学校

一 提案主旨 臨海学校のありかたはいかにあるべきか。

- 実施目的 (1) 健康教育・安全教育の立場から夏期休暇中一定期間海浜生活を行ない、水泳技術の修得と健康の増進を計る。
- (2) 集団生活を通して生活指導を徹底して行ない規律・協同・友愛・耐乏の精神を養う。

二 参加対象 中1全員必須参加、他学年希望参加  
参加者調査

	35年	36年	37年	38年	39年
教 官	9	9	10	9	8
水 泳 講 師	3	1	2	3	2
水 泳 助 手	4	4	4	5	6

中 1	男	50	52	49	44	46
	女	41	37	40	44	40
中 2	男	29	29	22	23	14
	女	20	33	19	11	20
中 3	男	10	7	0	1	0
	女	6	12	6	1	0
計		172	184	152	141	136

三 期間 8月上旬 5泊6日 38年より（4泊5日）

場所 26年～37年迄 静岡県浜名郡新居町弁天  
臨海学園 清風荘

38年～39年 知多郡美浜町野間 野間館

### 四 経費

	37年(新居) (5泊6日)	39年(野間) (4泊5日)
宿 泊 費	1,250円 (1泊250円)	2,200円 (1泊550円)
米 代	350円	
交 通 費	280円(汽車・バス)	250円(電車・バス)
雑 費	220円	110円
計	2,000円	2,560円

### 五 日課 (平常時)

午 前	
6:00	起床, 点呼, 朝会, 体操, 清掃
7:00	朝食
7:30	学習
9:20	
9:30	水泳
11:30	
12:00	昼食
午 後	
12:30	午睡
2:00	
2:20	水泳
5:00	

5:10 入浴他自由時  
 6:00 夕食  
 6:30 自由時間 (レクリエーション)  
 9:00 点呼 就寝準備  
 10:00 消燈

六 水泳級別基準

7級 25mに達せざるもの 6級 25m以上  
 5級 100m以上 4級 500m以上  
 3級 標準泳法略修得  
 クロール, バック, 平泳, 横泳, 潜水(20m),  
 逆跳込  
 2級 3級泳法の他立泳, バタフライ, 横体泳法各種  
 1級 救助法 指導法

七 指導組織 39年度の例(能力別指導)

	班別	教官	助手	級別(泳力)	人員
男	1	1	1	4級以上 女 2, 3級	12

八 水泳技術修得の状況

泳力修得の成果表 (1年生)

年 度	性 別	人員計	初 テ ス ト					終 末 テ ス ト					
			7 級	6	5	4	3	7 級	6	5	4	3	2
35年	男	50	22	14	6	8	0	11	14	16	9		
	女	40	31	7	2		2	7	25	6			
36	男	52	29	5	10	2	1	20	12	12	7		
	女	37	29	4	4	1	0	8	23	5	1		
37	男	49	17	15	14	3	0	7	12	23	7		
	女	40	26	12	2		2	15	13	8	1	1	
38	男	49	23	15	11	1	1	12	18	16	2		
	女	38	23	11	3		1	6	17	13	1	1	
39	男	51	20	11	17	3	0	14	6	25	6		
	女	39	27	11	1		0	8	28	3			

初テストの結果は名古屋市内小学校のプールの施設の普及により向上すべきであるが全般的にはあまり向上していない。特に女子の泳力は低く変化がない。

訓練後の結果の終末テストでは7級を皆無にする学校方針を略達成しているものと思われる。毎年1, 2名のものが残るが、これは見学者にみられるので経続進級度数表 (1年生)

		3 6 年					3 7 年					3 8 年					3 9 年				
		0	1	2	3	計	0	1	2	3	計	0	1	2	3	計	0	1	2	3	計
男	7級	1	20	8		29		6	11		17	1	11	11		23		14	5	1	20
	6		2	3		5	1	1	12	1	15	1	7	6	1	15		1	10		11
	5	1	10	5		16		10	4		14		10	1		11		14	3		17
	4		2			2	1	2			3							3			3
	3																				
子	7級																				
	6																				
	5																				
	4																				
	3																				

子	2	1	1	5 級	21
	3	1		6 級	13
	4	1	1	7 級	21
女	1	1		4 級	8
	2	1		5 級	8
	3	1	1	6 級	10
子	4	1	1	7 級 (1A)	15
	5	1	1	7 級 (1B)	14

全般指導 教官1 時計・監視係 教官1(見学者)  
 教護係1

指導組織は性別・能力別班編成とし、指導の重点を下級の初心者指導におく、班別人員の限界を指導者1人宛泳げないもの7バデー(14人)、泳げるもの10バデー以下を原則としている。

して練習しているものには殆んどこれがなくて目的を達成している。

各級別の進歩状態を示したものが下の表である。下級の段階では4泊5日約20時間の練習で2階級進級者が多くあるが、上級者は泳法が主体となり程度が高くなるので進級度は劣っている。

本校の学校行事について

	計	2	34	16		52	2	19	27	1	49	2	18	18	1	49		32	18	1	41
女子	7級		8	20		28	2	14	10		26	1	5	15	2	23		6	21		27
	6		3	1		4	1	3	8		12	1	2	8		11	2	7	2		11
	5		3	1		4			1	1	2		2	1		3		1			1
	4	1				1								1		1					
	3																				
	計	1	14	22		37	3	17	19	1	40	2	9	25	2	38	2	14	23		39

九 指導過程

- 水馴れ
- (A) 浮き方(伏せ浮き)→バタ足→犬かき→クロール
  - (B) 浮き方→背面浮き(バックフロート)→フィニングバタ足→バック

原則として、女子には(B)法を指導している。(B)法の不十分な呼吸法の修得はポッピングによって会得させる。

十 生活指導

厳正なる規律をもった協同生活を体験させる為に携行品の簡素化と朝夜の点呼に指導の重点をおく。水着・運動服(寝衣はなし)・甘味品・所持金等を規正する。H・Rを基盤とした生活班長制度でセルフサービスを強調して協同責任感の育成により結果をあげている。

十一 レクリエーション

1. 班別対抗演劇コンクール(合唱・劇)
2. 班別対抗砂の芸術大会

この為夜の自由時間等が利用され班の団結のためにより結果をあげている。

十二 表彰

- 団体生活訓練賞 水泳技術向上賞
- 個人生活訓練賞 水泳敢闘賞

問題点

1. 経費面 年々増加の傾向が見られ必須参加の1年生に負担の無理があってはならないが、経費削減の為、日数をちぢめることは水泳技術修得上不利である。研究の結果では泳力の進歩は3日目以降に著しい。
2. 女子の見学者(生理上)と陽転者の取扱い。  
集団生活訓練の為事前にわかってもも参加させて奉仕的仕事をやらせる。陽転者は校医の指示により軽減して練習に参加させている。
3. 宿舎の学習的環境整備の不備の点
4. 指導スタッフの充実現況では略満足の状態であるが初心者の中で特別指導を要するものがあり個人指導要員を更に充実したい。対策としては卒業生・高校生の助手の活用を強化したい。

5. 携行品の規正、本年より水着を統一したが結果はよかった。女子用 700~900円 男子用 400円

校内大会

一 提案主旨

学校行事としての校内大会のありかたは、いかにあるべきか。

二 問題点

- (1) 年間行事と正課体育との関連
- (2) 小規模の学級編成をいかに活用するか
- (3) 校内大会をつうじてのHRの団結はいかにするか。
- (4) 学年差に基づく体力・技術の差をいかに調整するか。

三 実際の報告

1. 実施内容

実施種目

	中 学	高 校
I学期	ソフトボール 5月	全 左
	バレーボール 7月	
II学期	体 育 祭 10月	全 左 サッカー男 12月 バスケット女 12月
	ドッチボール 12月	
III学期	マラソン大会 2月	全 左

出場チーム数と競技方法(クラス別)

	中 学	高 校
ソフトボール (トーナメント制)	男 2チーム	男 3チーム
	女 2チーム	女 2チーム
バレーボール (トーナメント制)	男 2チーム	男 4チーム (6人制) 女 3チーム
	女 2チーム	
サッカー (トーナメント制)		男 2チーム
バスケット (トーナメント制)		女 2チーム



本校の学校行事について

年	サッカー	1	1	0	6●	1	2
	バスケット	0	0	1	4	6	6○
	マラソン	1	4	3	2	1	1
	合計	9	12	24	26	26	21
順位	6	5	3	1	1	4	
36年	ソフトボール	0	3	6	5○	11●	3
	バレーボール	2	2	2	1	14●	7
	体育祭	2	1	7	4	5	3
	サッカー	0	0	1	4	4●	2
年	バスケット	2	2	0	0	3	4○
	マラソン	4	2	1	3	1	1
	合計	10	10	17	17	38	17
	順位	5	5	2	2	1	2
37年	ソフトボール	4	5	2	2	10●	5
	バレーボール	5	7●	5○	2	5	4
	体育祭	2	3	1	4	5	7
	サッカー	3	1	1	2	4●	0
年	バスケット	4○	1	0	1	3	2
	マラソン	1	4	3	2	1	1
	合計	19	21	12	13	28	19
	順位	3	2	6	5	1	3
38年	ソフトボール	2	3	8●	7	5	3
	バレーボール	3	0	5	11●	3	6○
	体育祭	2	3	4	5	1	7
	サッカー	2	0	3	2	4●	0
年	バスケット	1	2	3	3○	0	2
	マラソン	3	4	2	1	1	1
	合計	13	12	25	29	14	19
	順位	5	6	2	1	4	3

問題点(4)の中学の学年差に基づく体力・技術の差をいかに調整するか、この為種目別に各種のハンディキャップを設けた結果が(3表)である。ソフトボール(男)はハンディの効果がなく3年が優位である。(女)は適当なハンディにより一応ゲームが展開できる。バレーボール(男)はソフトと同じ結論で技術的要素と基礎的体力の差がレシーブ力、サーブ力に大きくあらわれており、特に1年は1学期末であり経験回数少なく技術的にも基礎技能が未熟で未だゲームを行なうレ

ベルに達していない。(女)は3年より2年が勝ち点累計が20で、3年の19よりまさりゲームとしても白熱している。

ドッチボールハンディの僅かな変動により結果が変ってくる。38年は3年が優位で、37年は逆の結果がでている故に6, 4, 2位のハンディがよいと思う。

種目別 性別 学年別 勝ち点表(3表)

		中 学					
種目	性別	年度	1 年	2 年	3 年		
ソフト ボ ー ル	男	35	1	3	7		
		36	4	0	7	25	
		37	2	8	4	5	
		38	1	4	6		
	女	35	3	6	2		
		36	1	4	6	20	
		37	2	12	1	8	
		38	6	1	4		
	ハン デ ィ	35年 男女共通 3年×1年=3 2年×1年=2 3年×2年=0					
		36年男 3年×1年=7 2年×1年=5 3年×2年=3					
		女 3年×1年=5 2年×1年=3 3年×2年=2					
		37年 男女共通 1学年につき=3					
バ レ ー ボ ー ル	男	35	1	4	6		
		36	1	3	7	24	
		37	3	5	5	3	
		38	0	3	8		
女	35	2	8	1			
	36	0	5	5	6	19	
	37	1	5	3	7		
	38	2	4	5			
ハン デ ィ	男女共通						
	35年 3年×1年=10 3年×2年=4 2年×1年=6						
	36年 3年×1年=13 3年×2年=7 2年×1年=9						
	37年 3年×1年=13 3年×2年=7 2年×1年=9						
38年 3年×1年=10 3年×2年=4 2年×1年=8							
ド ッ チ	混 合	36	5.5	4	5.5		
		37	6.5	15.5	6	14.5	2.5 15
		38	3.5	4.5	7		
試合方法 各クラス2チーム男女混 合A・Bゾーンにてリーグ 戦 7分3セットマッチ							

ポ ー ル	ハ ン デ ィ	36年	3年×1年=7 2年×1年=3	3年×2年=4
		37年	3年×1年=7 2年×1年=3	3年×2年=4
		38年	3年×1年=5 2年×1年=2	3年×2年=3

高校 (4表)

種目別 性別 学年別 勝点表 (4表)

高 校 (ハンディキャップなし)					
種目	性別	年度	1 年	2 年	3 年
ソ フ ト	男	35	5	8	4
		36	2	6	9
		37	4	2	11
		38	3	8	6
	女	35	1	6	4
		36	1	5	5
		37	5	2	4
		38	2	7	2
バ レ ー	男	35	3	7	7
		36	1	2	14
		37	9	2	6
		38	2	11	4
	女	35	1	4	6
		36	3	1	7
		37	3	5	3
		38	1	5	5
サ ッ カ ー	男	35	2	6	3
		36	0	5	6
		37	4	3	4
		38	2	5	4
バ ス ケ ッ ト	女	35	0	5	12
		36	4	0	7
		37	5	1	5
		38	3	6	3

高校 (4表) は総合的には学年順に各種目毎勝点合計がでていますが、年度毎には内容は変動をもっている。学年別の追跡によりその学年の運動種目別の優劣の判別をする資料としている。

### 体育祭

レクリエーション的種目と陸上競技的種目を同じ位ウエイトをかけ、高校は全種目クラス対抗、超学年対抗とし、中学は個人的競走的種目は同一学年対抗する様若干の配慮はしてある。

### マラソン

参加率に重点をおき全員定走を目標にしている。個

人の成績は勝ち点に関係なくクラスの団結の手段として勝ち点を参加率に与える。

### 37年以前 (芳野町校舎)

庄内川堤 高男 8000m 女 3400m  
中男 6800m

### 38年 (東山校舎)

高男 5800m 女 3100m  
中男 4200m

### 結 論

校内大会のあり方として全員参加の主旨は徹底されており、又勝ち点制によりクラス内チームの編成も優秀チーム選抜の方法をとらずに無作為の方法をとっているためにクラスの融和を図る事には一応の成功をしている。高校は超学年対抗ハンディなしでよいが、中学の試合方法の問題は未解決で研究を要する。東山移転により学校体育環境の整備進展をまって種目内容も当然検討を加えるべきである。

### 遠 足

春期遠足 (5月) HRの融和を計り、レクリエーション的行事として行なう。

#### 規定

1. 学年単位
2. 集合・解散時刻 8:00~17:00
3. 乗物使用可 料金 250円以内
4. 4km 以上徒歩を含める。

秋期遠足 (11月) 全校生徒同一コースを歩き鍛練的意味をもつ。

#### 規定

高 15~20km 以上歩く事

中 13~16km //

コースの事例 (34年以降)

- 34年 笠 松→犬 山 (木曾川堤)
- 35年 河 和→師 崎
- 36年 八百津→蘇水峡
- 37年 足 助→下川口
- 38年 学 校→五色園中 13km 高15km

問題点 (春) 交通機関の確保と経費の増加

(秋) 1. 全 上

2. 中1~高3迄の性別・体格・体力差の調整

3. 便所の問題

### 修学旅行

(中) 期日 (中3) 5月10日頃

場所経路 名古屋→箱根(泊)→江ノ島・鎌倉→羽田空港→東京(泊)→軽井沢(泊)→名古屋(3泊4日)

費用 4,500円

引率者 6名

## 本校の学校行事について

(高) 期日 (高2) 3月下旬  
場所経路 名古屋→倉敬→岡山(泊)→広島→  
島→巖島(泊)→秋吉台・秋芳洞→萩(泊)→  
出雲大社→松江(泊)→鳥取→天の橋立(泊)→  
京都→名古屋(5泊6日)

費用 8,018円

引率者 6名

中高共37年店より同一コースを採用している。

- 問題点 1. 経費の増加  
2. 時期の選定特に高校

## 文化祭

### 一 実施例

#### 37年度

11月5日 (豊田講堂)

中高合同文化祭 (8:50~12:30)

- I 合唱と器楽 (中学の部)
- II 合唱と独奏 (高校の部)
- III 吹奏楽クラブ発表
- IV 映画鑑賞 (にあんちゃん)

高校文化祭 (1:00~4:00)

- I 金大付高派遺生徒発表  
弁論 研究発表
- II 弁論大会

11月6日 (本校体育館)

中学校文化祭

〔午前の部〕 8:40~12:30

- I 演劇 (学年ごと)
- II 弁論大会
- III 演劇クラブ発表

〔午後の部〕 12:30~3:30

展示物見学 バザー フォークダンス

高校文化祭

〔午前の部〕 9:00~12:00

展示物見学 バザー

〔午後の部〕 12:45~7:00

- I 演劇クラブ発表
- II クラス別演技
- III フォークダンス
- IV ファイアストーム

#### 38年度

中学校文化祭

11月4日 (赤塚校舎)

〔午前の部〕 8:20~12:00

- I 音楽会
- II 弁論大会
- III 放送クラブ発表
- IV 英語クラブ発表

バザー クラブ展示見学

〔午後の部〕 1:30~4:00

- I 榊君渡米報告
- II ブラスバンドクラブ発表
- III フィークダンス

高校文化祭

11月4日 (東山校舎)

〔午前の部〕 8:40~12:00

- I ブラスバンドクラブ発表
- II 音楽会
- III 演劇クラブ発表

〔午後の部〕 1:00~3:30

バザー 展示物見学

11月5日 8:40~3:30

- I 演劇コンクール
- II 弁論大会

### 二 問題点

1. 中学・高校合同とするか、分離するか、このかねあいが大きな問題点である。

昭37年は赤塚校舎で合同部門と中高別部門にわけた。昭38年は校舎が別のため両校独立で行なう。昭39年は略37年準じた。合同の時は中高間の理解度等のひらきが大きいので困難点が多くて運営上支障をきたした。今後は分離の方向に進むことと思われる。

2. 文化系クラブの発表の場として文化祭が適切かどうか。

文化系クラブの発表の機会として、文化祭は大きな意義をもつが、文化系クラブ振興のためには小規模な機会をいくつか設ける必要があるはしないか。このため1学期小文化祭を行なうようになったが未だ十分の成果をあげていない。

3. 展示会への一般の関心のうすさ。

演劇などの発表にくらべて一般の関心が展示会にはうすく、時間的にもゆっくり見ていない。

4. 経費の問題 特にH・R演劇が所定のH・R費用をオーバーし個人の負担になること等。

5. 文化祭準備の時間的問題

今までは特に準備のための時間を設けてはいないが放課後のクラブ活動(体育系)の不活発化と下校時刻のルーズ化が問題となっている。

提案資料多く、時間不足の為文化祭関係の説明を省略した。

### 質疑応答

本校の遠足に対する基本的態度如何

東京学大付属より

答 春期はクラスの融和を目的としてレクリエーション的意義をもち、バス等の乗物の使用を認め、学年

一 般 研 究

単位で実施する。  
秋期は鍛練的意義をもち全般同一コース（中学は距

りを短縮する）を歩く事。過去においては10～7里  
の遠足を実施した。